

前回の説明と議論

■ 建設費の削減

■ 建設予定地周辺における環境変化

- ・ 富山市総合体育館の改修計画
- ・ オーバード・ホール／中ホールの開館

■ 既存周辺施設の立地

- ・ オーバード・ホール、富山県民会館
- ・ ゴールドジム富山環水公園店
- ・ APAコンディショニングジム×ハイアルチ

◆ 主な意見(第1回見直し検討委員会)

- ・ 球技系に関しては富山市総合体育館が充実しており、球技ではなく、床に金具をつけなくていいような種目に絞るのも一つの案ではないか。
- ・ 武道は武道館でという考え方がやはり良いのではないか。
- ・ 基本計画における主道場の6面は、ある程度の大会をやる最小限の大きさ。
- ・ 武道に特化する場合、機能を見直すべきだし、財源の問題もある。必要な機能に特化した上で、規模自体を見直す必要があると感じる。

これらを踏まえ

見直しの方向性（案）

- 施設のコンセプト
- 「① 武道競技の振興・競技力向上に寄与する施設」に特化

※弓道場・相撲場は、基本計画どおり既存施設に必要な改修等を実施。

● 機能及び規模

① 武道競技の振興・競技力向上

- ・ 富山県の武道の拠点となる施設
- ・ 武道競技の公式大会が開催可能な施設
- ・ 日常の稽古や指導者講習会、研修会で利用しやすい施設



※上記を満たすために、必要な競技面の規模

県内大会や全国大会など公式大会を開催するには、競技面(主道場)で最低限2,000㎡程度(50m×40m、試合場で6面)必要→【競技面の規模(P.2)】

競技面の規模

● 競技面(主道場)に最低限2,000㎡の広さを要する根拠について

県内大会・全国大会の別を問わず、参加者数が数百人規模となる公式大会を開催する場合、以下の理由から、競技面(主道場)に最低限約2,000㎡程度(縦50m×横40m、試合場で6面相当)が必要となる。

1. 円滑な大会運営のために必要なスペースの確保が求められること(複数の試合場や大会役員席のほか、選手控席や競技役員・補助員の待機席等)
2. 大会を開催日中に終了させるため、複数の試合場において相当数の試合(所要時間)を集中的に消化する必要があること

(例) 富山県剣道大会 (R4.12.4富山市総合体育館)

- ・参加者数 230人 (個人戦120人、団体戦110人)
- ・試合数 215試合
- ・延べ所要時間 約1,720分間 (平均試合時間約8分間)
- ・試合場 4面

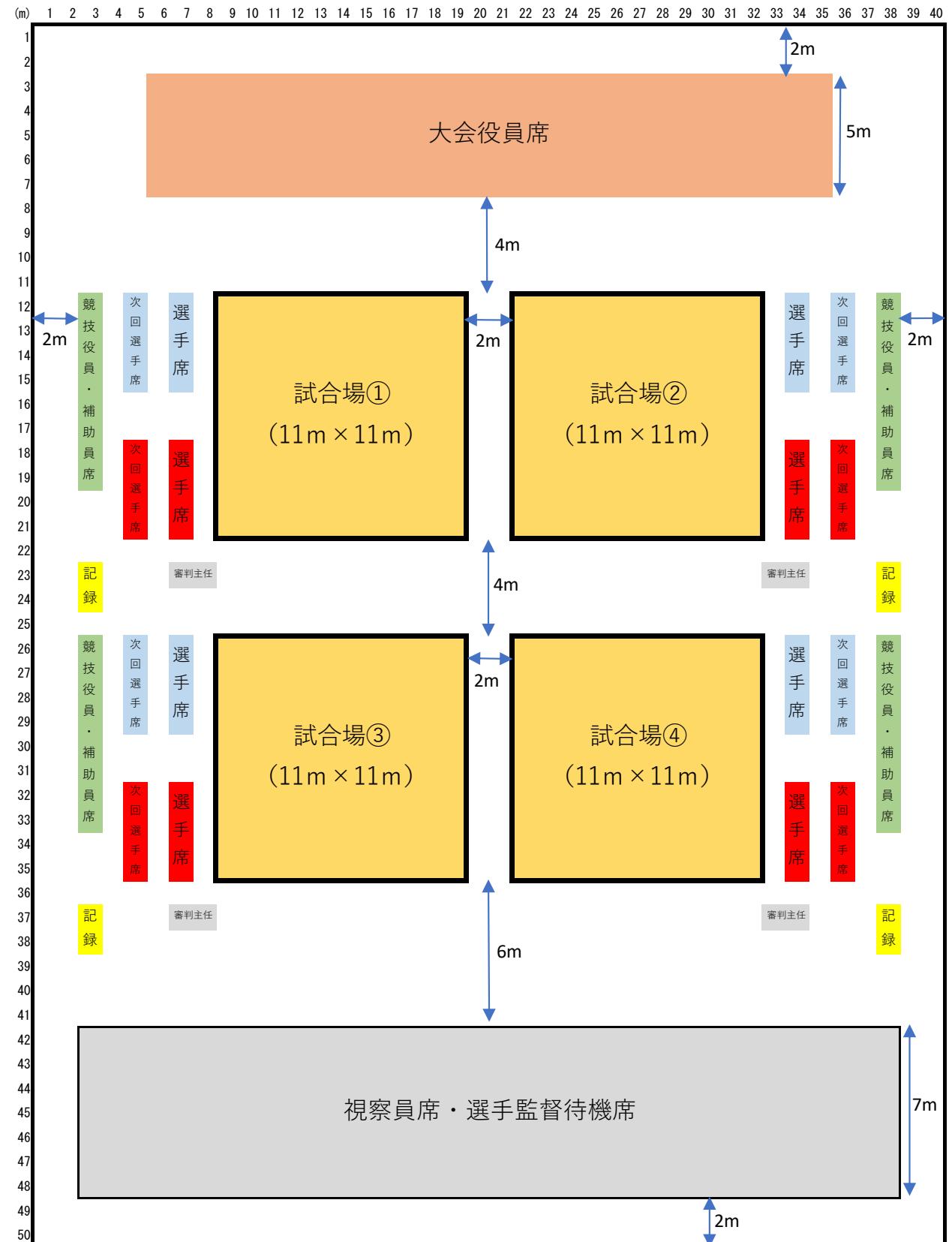
⇒ 約1,720分間 ÷ 4面 = 約430分間 (約7時間)

【参考】他県の類似施設における競技面の面積

- ・長野県立武道館：2,048㎡(主道場)
- ・新潟県立武道館：2,150㎡(大道場)



(例) 2,000㎡の競技面での会場レイアウト (剣道競技、大会参加者数250人程度)



■整備費の考え方

$$\text{単価} \times \text{延床面積} = \text{概算整備費}$$

<基本計画時(令和2年4月)>

$$626\text{千円} \times 14,000\text{m}^2 = 87.6\text{億円}$$

→85~95億円と想定

<基本設計時(令和3年3月)>

$$590\text{千円} \times 14,799\text{m}^2 = 87.4\text{億円}\cdots(\text{A})$$

<物価上昇率反映後(令和5年1月)>

$$590\text{千円} \times 14,799\text{m}^2 \times \underline{1.29} \doteq 112.8\text{億円}$$

(物価上昇率)

$$\Rightarrow 112.8\text{億円} - \underline{2.9\text{億円}} = 109.9\text{億円}\cdots(\text{B})$$

(設計内容の見直しによる削減)

■見直しの考え方

概算整備費を削減するには

→①単価の削減、②延床面積の削減

<A)の内訳>

- ・ガラス→壁面[▲1.51億円]
- ・外装ルーバーの取りやめ[▲1.27億円]
- ・照明ボタン、吊物ボタンの削減[▲0.33億円]
- ・VIP用エレベーター取りやめ[▲0.18億円]
- ・エスカレーターの取りやめ[▲0.46億円]
- ・その他(特殊合わせガラス等の取りやめ)[▲0.28億円]
- 合計[▲4.03億円]

<B)の内訳>

- ・観客席(2,200席)[0.86億円]
- 観客席(1,500席)[0.59億円]
- 削減額[▲0.27億円]

※計算式(2,200席→1,500席)
 $0.86\text{億円} \times (1,500\text{席} / 2,200\text{席}) = 0.59\text{億円}$

<①単価の削減>

A)多目的仕様から武道館専用仕様に[▲4.03億円]

B)観客席数の削減(2,200席→1,500席)[▲0.27億円]

合計4.3億円削減

・単価= $(87.4\text{億円} - 4.3\text{億円}) \div 14,799\text{m}^2 = 562\text{千円}$

<②延床面積の削減>

A)観客席数の削減(2,200席→1,500席)[▲480m²]

B)トレーニング室の削減[▲200m²]

C)備蓄倉庫の削減[▲330m²]

合計1,010m²削減

・延床面積= $14,799\text{m}^2 - 1,010\text{m}^2 = 13,789\text{m}^2$

<見直し後> ※基本設計時(令和3年3月)の物価ベースによる積算
562千円 × 13,789m² = 77.5億円…(C)
(基本設計に比べ、9.9億円減)

 物価29%上昇

<現時点の物価を反映>
77.5億円 × 1.29 = 100.0億円…(D)
(物価上昇率)

 さらに物価上昇した場合…

<さらに5%上昇した場合>
100.0億円 × 1.05 = 105.0億円
(物価上昇率)

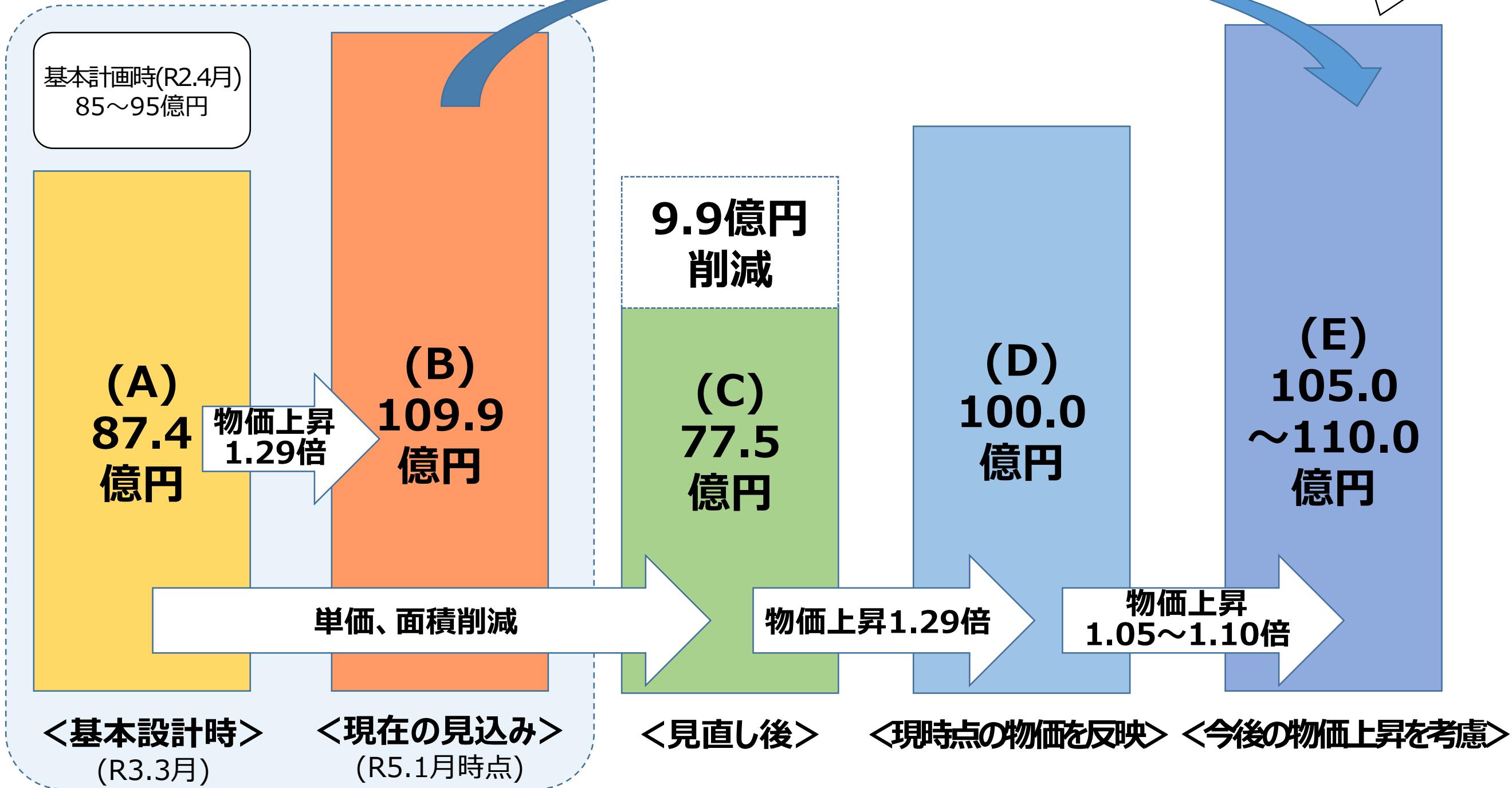
<さらに10%上昇した場合>
100.0億円 × 1.1 = 110.0億円
(物価上昇率)

⇒ **整備費見込み 105.0~110.0億円…(E)**
(現在の見込み109.9億円に比べ、4.9億円減~0.1億円増)
(R5.1月時点)

概算整備費の見直しや見込み

4.9億円減～0.1億円増

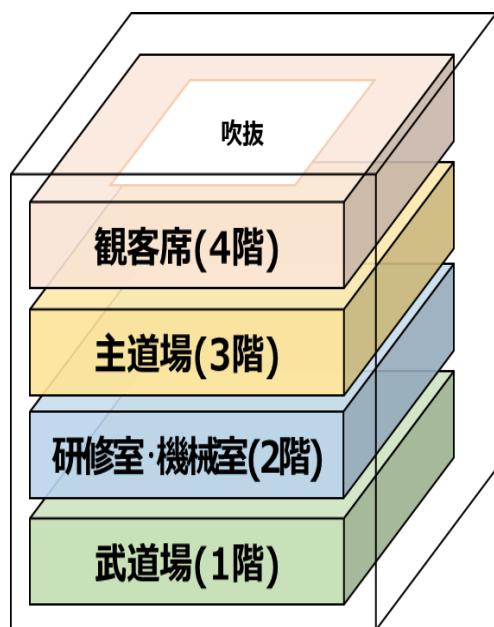
基本計画時(R2.4月)の概算整備費(85～95億円)を上回る状況



(案) 現計画では、主道場と武道場の **2層構造(4階建)** になっているが、**単層構造(2階建)** とすることにより、近隣の県立武道館程度の延床面積(12,000~12,500m²程度)に削減が期待できる。

2層構造イメージ図

<立面イメージ図>



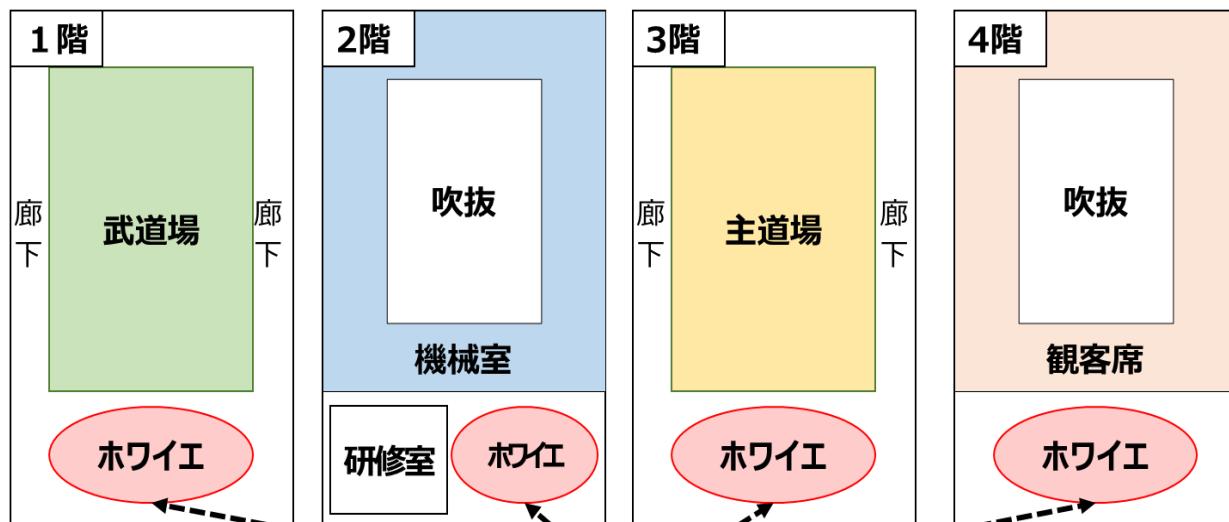
単層構造と比較して

- **延床面積が大きい。**
- **建物構造は極めて高い強度が必要**
(→無柱空間の武道場で上層階を支持する必要があるため。)

<例>

- 富山県武道館
(基本設計時点[R3.3月])
延床面積14,799m²

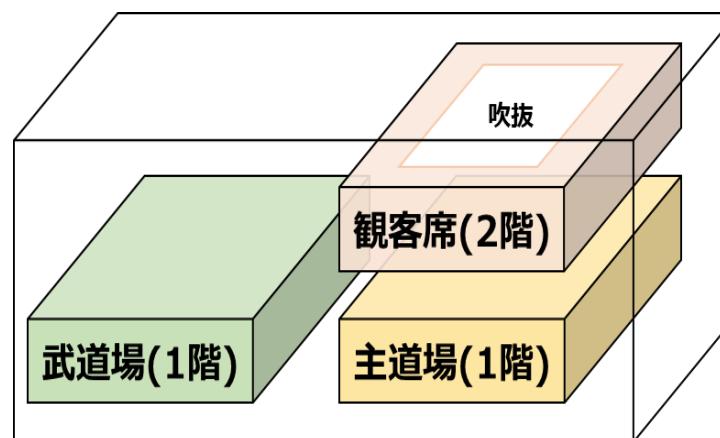
<平面イメージ図>



各階にホワイエ、廊下、トイレなどが必要

単層構造イメージ図

<立面イメージ図>



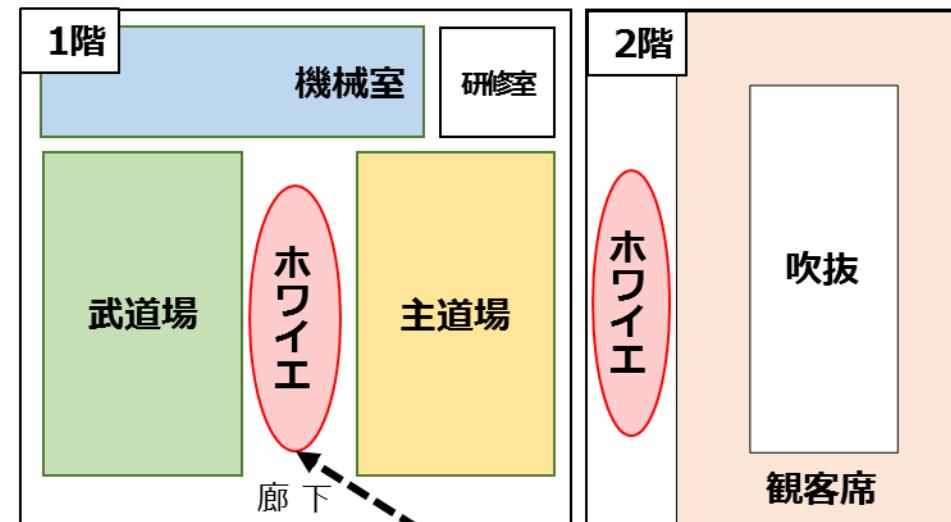
2層構造と比較して

- **延床面積が小さい。**
- **建物構造は標準的な強度で可**

<例>

- 長野県立武道館
延床面積12,382m²
- 新潟県立武道館
延床面積13,035m²

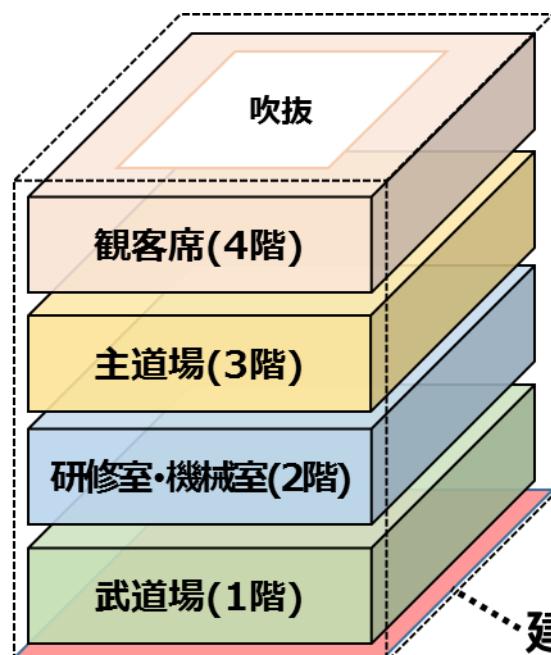
<平面イメージ図>



2層構造の場合、各階に必要なホワイエ、廊下、トイレなどの集約が可能

ただし、**単層構造(2階建)**の場合、**建築面積が7,500㎡程度必要**なため、**現計画地(敷地面積:5,950㎡)**では、**建設困難**

2層構造(立面イメージ)

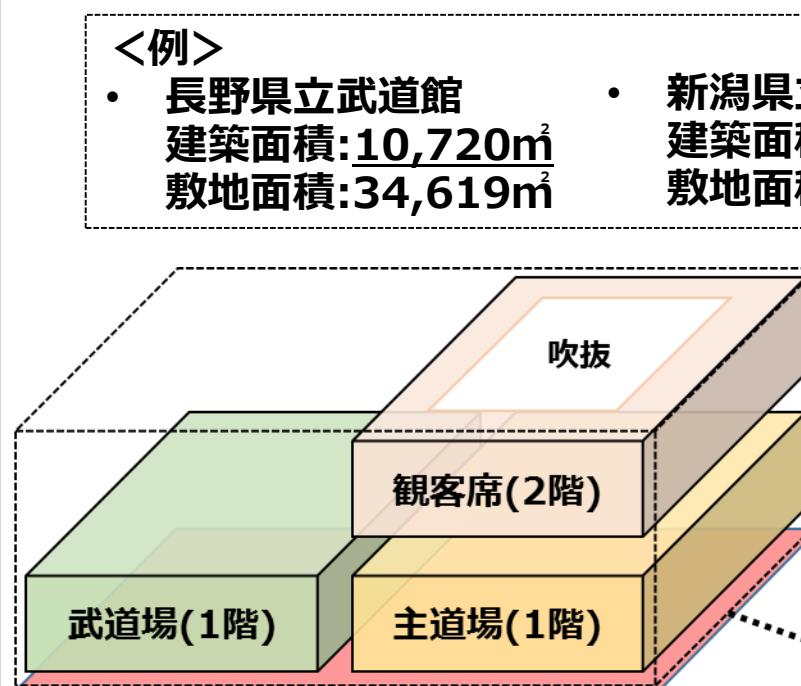


<例>

- 富山県武道館
(基本設計時点[R3.3月])
建築面積:5,253㎡
敷地面積:5,950㎡

建築面積

単層構造(立面イメージ)



<例>

- 長野県立武道館
建築面積:10,720㎡
敷地面積:34,619㎡
- 新潟県立武道館
建築面積:8,508㎡
敷地面積:22,950㎡

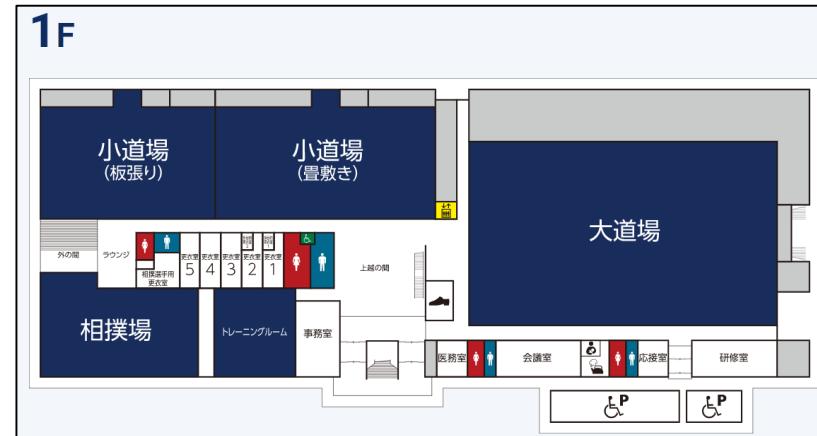
建築面積

武道場と主道場を1階に配置するため、建築面積が大きくなる

※**単層構造(2階建)**の場合に必要な建築面積

- 新潟県立武道館の建築面積(8,508㎡)から、相撲場(535㎡)とトレーニングルーム(261㎡)を除くと7,712㎡。

⇒**建築面積は7,500㎡程度は必要と考えられる。**



出典：新潟県立武道館HP

■見直しの考え方(再掲)

概算整備費を削減するには

→①単価の削減、②延床面積の削減

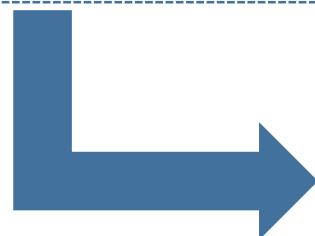
<①単価の削減>

A)多目的仕様から武道館専用仕様に【▲4.03億円】

B)観客席数の削減(2,200席→1,500席)【▲0.27億円】

C)建物構造の強度を下げる【▲4.6億円】

<C)の内訳>
無柱空間の武道場で上層階を
支持するかかり増し分【4.6億円】



合計**8.9億円**削減

・単価=(87.4億円-8.9億円)÷14,799m²=**530千円**

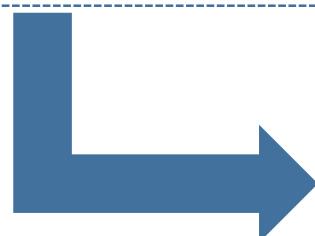
<②延床面積の削減>

A)観客席数の削減(2,200席→1,500席)【▲480m²】

B)トレーニング室の削減【▲200m²】

C)備蓄倉庫の削減【▲330m²】

D)ホワイエや廊下などの削減【▲1,630m²】



合計**2,640m²**削減

・延床面積=14,799m²-2,640m²=**12,159m²**

<見直し後> ※基本設計時(令和3年3月)の物価ベースによる積算
530千円 × 12,159m² = 64.4億円…(C')
(基本設計に比べ、23.0億円減)

↓ 物価29%上昇

<現時点の物価を反映>
64.4億円 × 1.29 = 83.1億円…(D')
(物価上昇率)

↓ さらに物価上昇した場合…

<さらに5%上昇した場合>
83.1億円 × 1.05 = 87.3億円
(物価上昇率)

<さらに10%上昇した場合>
83.1億円 × 1.1 = 91.4億円
(物価上昇率)

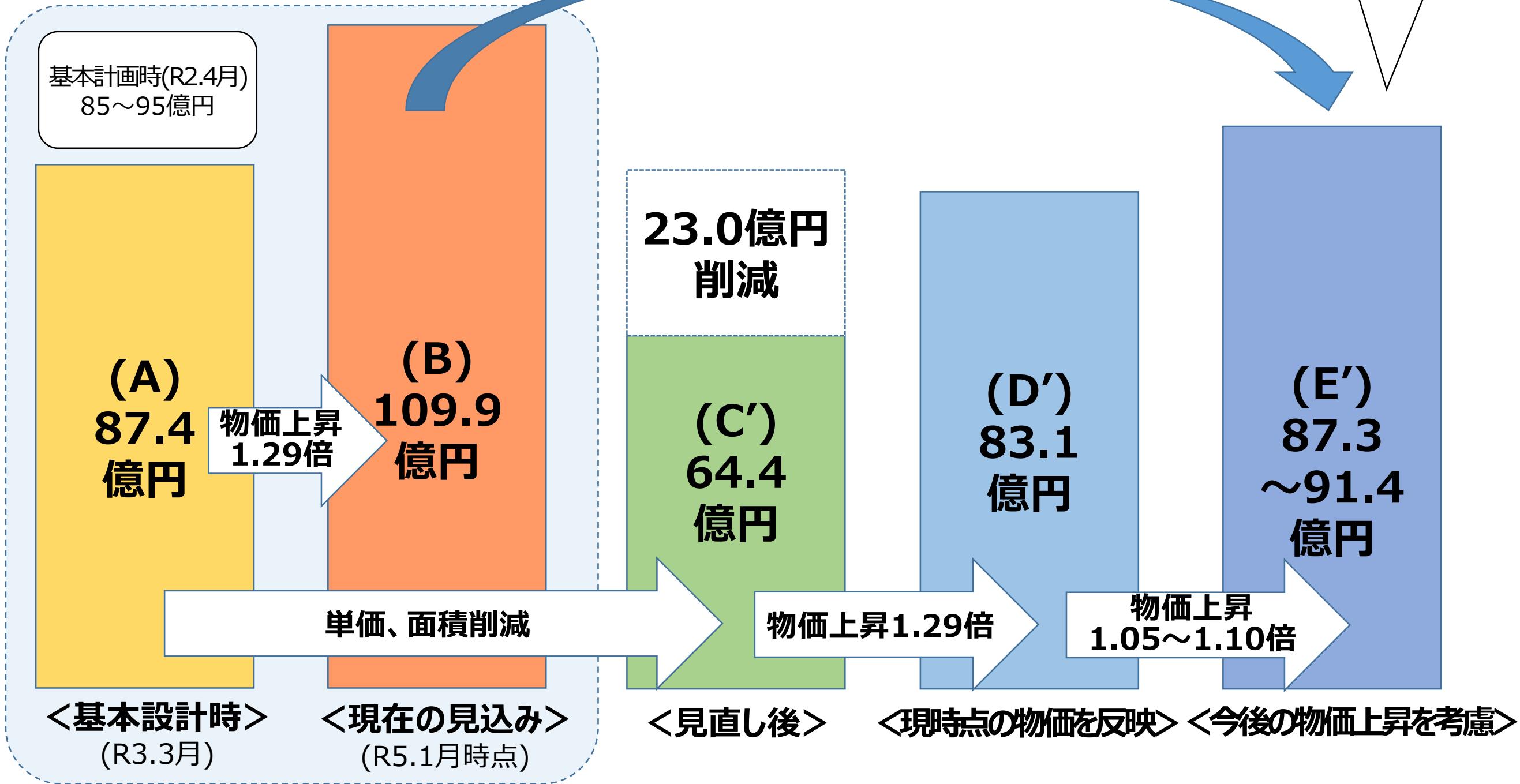
基本計画時(R2年4月)の概算整備費
85~95億円と同程度まで削減できる見込み

⇒ **整備費見込み 87.3~91.4億円…(E')**
(現在の見込み109.9億円に比べ、18.5~22.6億円減)
…ただし、現計画地は、敷地面積が小さいため単層構造による建設困難

概算整備費の見直しや見込み

18.5~22.6億円減

基本計画時(R2.4月)の概算整備費(85~95億円)と同程度まで削減できる見込み



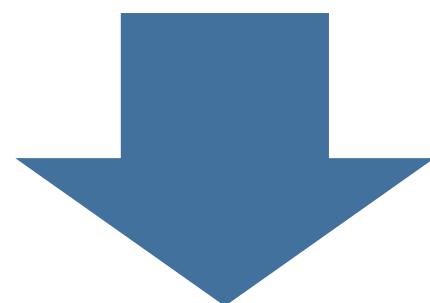
改めて立地場所を検討するにあたって

■建設費の削減かつ令和9年度中の開館

- 単層構造で建設可能な広さの土地で検討
- 用地取得に時間を要しない県有地で検討

■駐車場の確保

- 敷地内に駐車場が確保できる土地で検討



立地場所の検討(案)へ

立地場所の検討（案）

項目	㊤民間駐車場敷地 （※現計画地）	㊥五福公園スポーツ広場	㊦県総合運動公園敷地
場所	富山市千歳町	富山市五福	富山市南中田
所有者	民間会社	富山県	富山県
敷地面積	5,950㎡	約12,100㎡	約29,000㎡
建築上限面積	5,355㎡	約7,000㎡	約17,400㎡
法的制約条件	商業地域	第1種中高層住居専用地域 ※都市計画(用途地域)の変更手続きを要し、 最短で4か月程度必要	市街化調整区域
公共交通	富山駅 徒歩7分	市内電車富山大学前 徒歩6分(114本/日)	バス栗山 徒歩11分(55本/日)
自動車 (15市町村の役所・役場 からの平均所要時間)	40分	39分	37分
整備費試算	105～110億円 (2層構造となるため)	87.3～91.4億円 (単層構造となるため) ※敷地面積が小さいため、設計上の工夫が必要	87.3～91.4億円 (単層構造となるため)
駐車場の確保 (敷地内)	約20台	約100台整備可能 ※既設駐車場(400台)利用可	約300台整備可能 ※既設駐車場(1,200台)利用可
立地	富山駅から徒歩圏内	周辺道路の慢性的な渋滞	富山ICから近い (自動車9分)
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 多目的機能を要する場合、富山駅付近の設置が望ましい 	<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技場、サッカー場として利用されており、利用団体の理解が必要 	<ul style="list-style-type: none"> サッカー・J3カタレ富山のホームゲーム開催時は、駐車場不足の恐れあり

立地場所の検討 (案)

